

Hikari 金魚フード比較表

浮上性

金魚が飼い主の姿を見て水面に寄ってくる「餌付け」の楽しみや、パクパクと食べる様子を観察したい方に。エサが長時間水面に浮き続けるため、食べ残しの回収も簡単です。砂利の隙間にエサが入り込むことはありません。



アイドル

モロヘイヤ・ケール配合、野菜入り健康食。

基本食



ベビーゴールド

ぶどうポリフェノールでストレスケア。色揚げ強化。

色揚げ用



プロリア

ひかり菌で水汚れ抑制。プレミアム育成フード。

育成用
プレミアム



プロリア色揚げ

プロリアをベースに強力な色揚げ効果をプラス。

色揚げ用
プレミアム



ミニペット胚芽

小麦胚芽高配合。低水温時や体調不良時の保健食。

保健用



らんちうディスク
良消化

小麦胚芽+梅エキス配合。消化能力が落ちる時期でも安心。

育成用



らんちうディスク
育成用

あらゆる金魚を健全に、効率よく育てる沈下性の新定番。

育成用



ランチュウベビーゴールド

高栄養・高エネルギー食。肉瘤の発達と増体を追求。さらに抜群の色揚げ効果を兼ね備える。

育成&色揚げ用



ランチュウベビーゴールド

高栄養・高エネルギー食。肉瘤の発達と増体を追求。さらに抜群の色揚げ効果を兼ね備える。

育成&色揚げ用

沈下性

金魚本来の水底にあるものを探して食べる習性に合致。砂利のない水槽では特に重宝し、水底に留まった粒を掃除機のような動作で吸い込めるため、口より小さな粒でも効率よく食べることができます。



脂質の重要性

脂質は最も効率の良いエネルギー源で、悪環境下でも体力の消耗を抑え、免疫力を維持します。またタンパク質がエネルギーとして消費されてしまうのを防ぎます。原料の魚粉は製造過程で脂質が分離されるため、適正な脂質の追加配合が重要となります。Hikari製品は低カロリータイプであっても良質な脂質を4%以上確保し、成長と健康のバランスを最適化しています。

低カロリー

低カロリー健康食

古来よりプロの養殖現場では穀類主体の「炊きえ」を1日中お腹いっぱい食べさせ、健やかな体型の金魚を育ててきました。消化に優しく、内臓に負担をかけないこの「低カロリー・飽食」の手法は、少量を1日に何度も与える育て方として見直されています。

高栄養

高栄養プレミアム

錦鯉飼料ブランド「咲ひかり」の配合をベースに金魚専用へと最適化。高栄養ながらひかり菌が水汚れを抑え、抜群の成長効率を実現。少量給餌でも金魚の成長の偏りを防ぎ、理想的な体型を維持します。エントリーモデルとは一線を画す、圧倒的な性能を誇るプレミアム金魚飼料です。

良消化

良消化保健食

内臓への負担を最小限に。小麦胚芽がメインの消化特化型フード。低水温でも高水温でも腸内で腐敗しにくく、消化不良が引き金となるリスクから金魚を守ります。

高栄養

高栄養タイプ

金魚品評会で多数の実績を誇る。蛋白質・脂質の最適化とバイオジェニックス(※)配合により、抜群の消化吸収をサポート。効率よく栄養が身に付くため、回数を多く与えることでランチュウや大型種を、美しく圧倒的に立派な風格へと育て上げたい方に最適な、最高峰の「体づくり」用飼料です。

(※) 特定の納豆菌、乳酸菌、酵母菌の混合発酵抽出物

性能へのこだわり

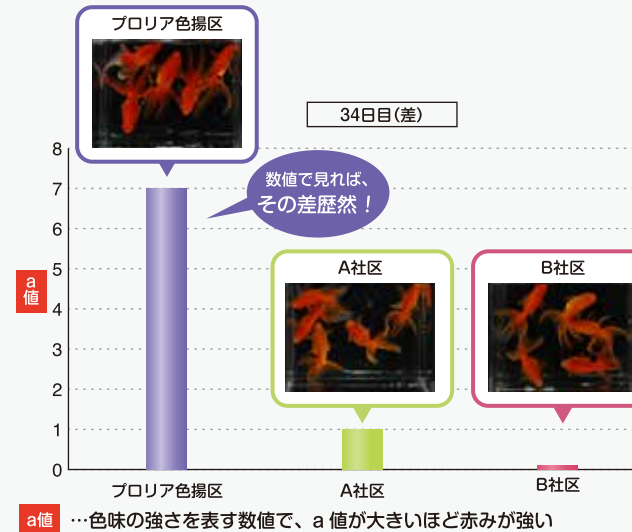
山崎研究所

理論を実証する終わりなき実験。研究所での膨大な飼育データが、すべての粒に反映されています。

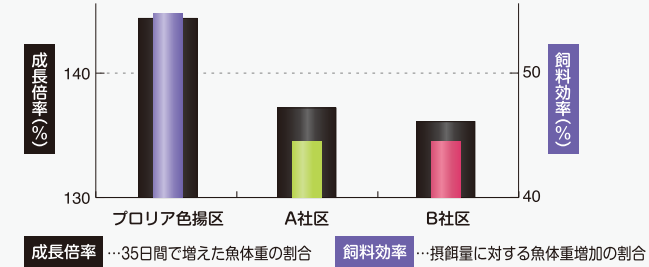


色揚げ試験

対象品: ●プロリア色揚げ ●A社菌入り色揚げ飼料 ●B社菌入り色揚げ飼料



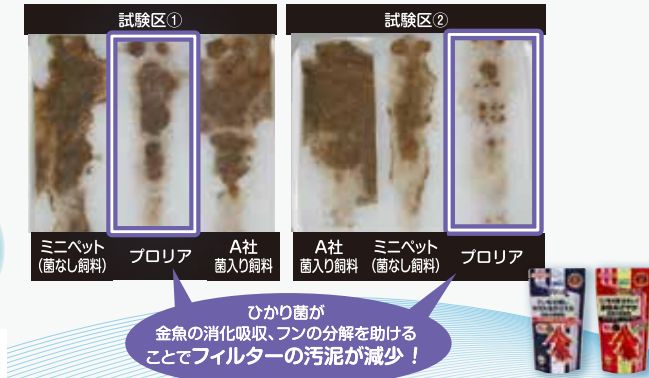
成長試験



飼料効率のよいエサは与える量を減らしてもバランスよく育ち、水が汚れません。

フィルター汚泥比較試験

対象品: ●プロリア ●ミニペット(菌なし飼料) ●A社菌入り飼料



ひかり菌が金魚の消化吸収、フンの分解を助けることでフィルターの汚泥が減少!

飼育に大切なお話

エサで「水槽のニオイ」をおさえる!?

水槽からニオイがするという状況は、飼育環境としてかなりマズい末期症状です。本来、ろ過(バクテリアによる浄化)がしっかり機能している水槽では、不快なニオイはほとんど発生しません。使用するエサの種類で変わるものではないのです。もしニオイが鼻につくようなら、すぐに半分から2/3の水を替える必要がある緊急事態といえます。

ニオイの正体は「腐敗菌」の仕業

その最大の原因は、食べ残したエサが腐敗することにあります。**腐敗菌(悪玉菌)**: 分単位で爆発的に増殖し、エサの残りを腐敗させ、嫌なニオイを発生させます。**ろ過バクテリア(善玉菌)**: 水をきれいにするバクテリア。増えるのが非常に遅く、定着するまでに約1か月もかかります。飼育初心者の方の多くは、この「ろ過バクテリア」が育つ前にエサを与えすぎてしまい、腐敗菌の増殖スピードに浄化が追いつかず、水がニオイ始めてしまうのです。

せっかくの「バクテリア」を捨てていませんか?

水替えの際、フィルターのマットが茶色く汚れているのを見て、「汚い!」と水道水でピカピカに洗ったり、新品に交換したりしていませんか?実は、その「茶色い汚れ」の中にこそ、水をきれいにする大切なバクテリアが棲み着いています。水道水(塩素)で洗うと、せっかく育ち始めたバクテリアが全滅してしまいます。「見た目が少し茶色いほうが、水はきれいになる!」——これはアクアリウムですごく不思議で、とても大切な事実です。

フィルターの洗い方

目詰まりして水の通りが悪くなる前に、「水替えの際に捨てる古い飼育水」を使ってよくもみ洗いしましょう。これでバクテリアを殺さずに汚れだけを落とせます。定期的な水替えは必要ですが、フィルターは頻繁に洗ってはいけません。

ひかり菌は、ろ過の味方

プロリアに含まれる生きた善玉菌「ひかり菌」は、金魚のお腹の中からフンと一緒に排出され、腐敗の原因となる汚れを元から分解します。分解された汚れは、ろ過バクテリアが処理しやすい状態になり、ろ過を助けます。

「ニオイがする」のはフードの種類で改善できるわけではなく、「ニオイが発生しない健全な環境を作る」ことこそが重要なのです。